

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科准教授：中田 幸司 先生

リベラルアーツ学部における教科専門教育での活用

中田先生は、平安宮廷歌謡の研究をはじめ、古代文学（和歌・歌謡・歌物語）を専門分野とされています。リベラルアーツ学部では、国文学および教科教育学を中心に、教員としての専門性を養う科目群においては、国語科指導法・古典文学演習を担当されています。学生の言葉を大切にされ、学生同士の意見交換および授業の事前の下地作りなどと多角的に Blackboard を活用されています。中でも教職関連の授業に非常に有効であり学生の学習効果として基礎学力の向上などを認識できるツールとして、国語科教員への育成に力を尽くされている事例を紹介いただきます。



科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆ 科目名：国語科指導法Ⅰ 3年生 35名
- ◆ 授業の概要：教科の基幹となる「読む・書く・聞く・話す」理解力と表現力を「学習指導要領」のもと、学生自らがいかに現場の児童・生徒に伝えるかを考え、実践する科目です。とくに一見、「一対多」に陥りがちな授業形態の中にも「一対一の延長」とする姿勢を心がけ相互通行の指導法となることを目指しています。

事前・事後の課題として

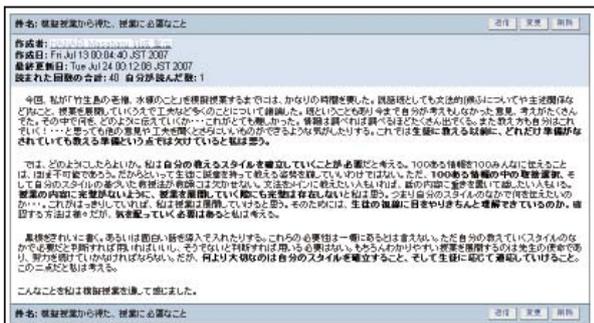
「よい答えを出すには、よい問いかけが大切」とはよく言われることです。また、自らが問題意識をもつことは自らを思考の杜へと導きます。この指導法のねらいには学生が実際に模擬授業を行い、ときには厳しく批評をしい「気づき」を生むことにもあります。そのために、教授者はなるべく多くの問いかけを心がけるのですが、この問いに対する学生の答えが文字通

り、モンダイです。教室での学生の言葉をより充実させたい、そう考えたときに頼もしい「味方」、「Blackboard@tamagawa（以下 Bb）」の活用法がひとつ見つかりました。

第1回目には「国語科教員として必要なこととは何か」という問いかけを授業数日前に Bb の掲示板に掲げました。各自授業前に書き込むもよし、他者の意見を参考にすることもよし、授業後に改めて書き込むもよしと自由記入にしたのです。どこで記入するかで、少し学生の気質が見え隠れするのも楽しいものです。また、これ以降、「教科書とは何か」・「教材研究とは何か」などの難問を投げかけ、必要に応じて「授業前に必ず」とか「授業後にみんなの意見を聞いてから」などと条件を加えながら Bb に書き込むように指示を出し続けました。教授者の問いかけを授業時間だけでは終わらせず、学生が問題意識として抱き続けることを教室の外へ運ばせたのが Bb でした。

意見交換の場として

学生にとって、たとえばひとつの文章を教材化する、つまり教えるということはどうことなのか、これは未知の経験であり大きな壁となります。今回は数種類の文章(随筆・物語・詩など)を数名のグループに分けて「教材化」する作業チームを作りました。むろん、目の前の文章の、何を・どのように・なぜ、教えなければならないのかをゼロから立ち上げるためには、限られた講義の時間だけでは足りません。やはり力強い「助っ人」となったのが「Bb」です。学生諸子はお互いの日程を調整する手段としてディスカッションボードを使い始め、そのうち、参考文献の情報交換、また生徒に何を伝えたいのか、という意見交換など、次から次へとやりとりとしてのスレッドを伸ばしていったのです。



Bb コース内ディスカッションボード内容

発表資料の事前配布として

こうして、「教材研究」や模擬授業のための「学習指導案」作りも作業チームに委ね、充実度はそのままスレッドの伸びが象徴し、情報・意見交換が成立していききました。教授者としては、このスレッド数がチームの進捗状況を把握する目安ともなり、状況に応じては「Bb」からア

ドバイスやコメントを配信し、たいへん有効でした。

講義の充実を計るには事前事後の学習、いわば予習・復習が大切であることは幼年期から言われ続けてきたことかもしれません。本講義でもっともメインとなる模擬授業の際にはやはり発表者から事前に資料が添付で教授者にメールによって配信され、その内容を確認したのちに「Bb」の講義欄に教授者が掲載しました。その直後には全員に Bb のメール機能から「資料を Bb に掲載」と連絡を入れ、発表者以外は各自がプリントアウトをした上で講義に出席するようなルールができあがりました。

お互いが資料を作り、プリントアウトするというアナログ的な作業を経ているからこそ、苦勞も共有でき、多少配信が遅れた学生に対しても「おたがいさま」といった意識が芽生えたことを教室で確認できたことが何よりも収穫だったように思います。



Bb コース内コンテンツ内容

今後に向けて

模擬授業に対する批評の結果を各グループは持ち帰り、初回に問いかけた「教員として必要なこと」に答えるべく、最終回には「教師に必要な 100 のおきて」を作り上げました。その内容はともかく、ここに至るまでの時間の有効な使い方をつねに支えていたのが「Bb」です。まだまだ私自身が十分に使いこなせていないながらも、少しずつ有効な利用方法を見出しました。今後はさらに機能を習得し、学生諸子へ還元できるよう努めたいと思います。

Blackboard@Tamagawa 活用教員アンケートの結果

02

春semester授業終了時に Bb 活用の先生方の中より、今回は 34 名 (文学部 11・農学部 2・工学部 1・経営学部 9・教育学部 4・芸術学部 1・リベラルアーツ学部 4・学術研究所 1・通信教育部 1) の方に Bb 機能のアンケートをインタビュー形式により回答をいただきました。科目の特性等に合わせた様々な活用状況をご参照ください。

講義の資料掲載

メリット ・次年度以降への教材の保管

- ・配布が容易 (印刷や校舎教室移動の運搬の軽減、教育実習や欠席者の対応)
- ・補講の手段
- ・ビデオ音声教材の視聴等授業中にはできない反復学習が可能
- ・授業内の聞き洩らした点の確認が可能
- ・音声教材としてのヒアリング効果大

デメリット ・作成や掲示に手間がかかる

BBS(ディスカッションボード)機能

メリット ・授業内に議論すべき問題意識を事前に BBS に提示し、学生達の事前準備として多用した結果、互いの考えを理解の上授業に臨み議論が充実した

- ・他者の意見を客観的に読むことができる

デメリット ・見づらい

教員にとって

メリット

- ・出張地から遠隔授業が可能
- ・成績表やアクセス統計を使って学習経過をみられる
- ・教員側からは大変便利なツールで、さらに学生側にとっても同様である為授業だけでなく教職課程関連の連絡や掲示用に活用していきたい
- ・専門用語が日常的な理解しやすい言葉に置き換えられた

デメリット

- ・自宅のネット接続環境がない学生の対応
- ・情報リテラシーの理解不足の学生の対応
- ・コースの並び順を解り易くしてほしい



課題提出機能

メリット ・提出率が格段に上がった

- ・テストやアンケートの実施方法が豊富
- ・受講者共通の条件で課題提示、回収が可能
- ・レポート作成時、Web サイトへのリンクで与えられた情報から学生自身がテーマ選択できるようになった

デメリット ・添削には不向き (紙ベース使用)

- ・返信や履歴確認の手順をもう少し簡単に

アナウンス機能

メリット ・教室内で繰り返し言う必要がない

メール機能

メリット ・受講生との連絡に便利

その他・要望等

- ・講習会や定期的な機能説明会の開催
- ・教員や学生が Bb の必然性を感じられるような使用法の提案
- ・Newsletter 掲載の事例集
- ・アセスメント (テスト) の使用例

学生にとっての学習効果

メリット

- ・授業内で手をあげない学生の質問および回答の機会を得られている
- ・基礎学力が向上 (Bb を使用していると個人の単位で確認でき大学の目指しているものに沿っていると感じる)
- ・社会人になった際の遠隔会議に役立つ



※ Bb 機能の使用説明・相談等につきましては、随時受けております。どうぞお問い合わせください。

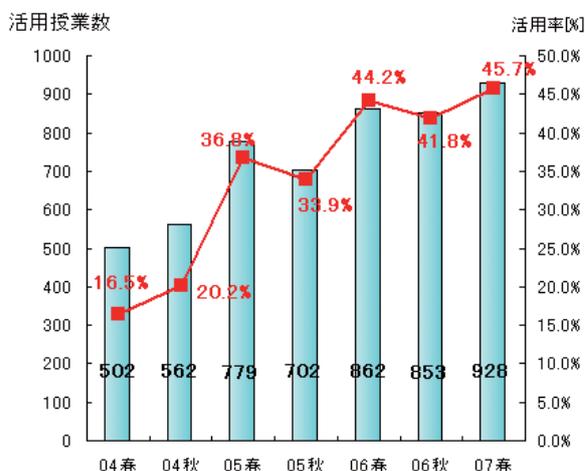
Blackboard@Tamagawa 2007 年度春学期のコース統計

2007 年度春学期の Blackboard@Tamagawa 利用率とコース統計結果をご報告します。2007 年度春学期を終えて活用授業数は 928 コース、利用率は 45.7%となりました。

2006 年度春学期と比べ、文学部、農学部、教育学部の利用率が増加しています。全体的に課題提出機能や小テスト機能の利用が増加しており、また、2007 年春学期で作成した動画は約 700 件、音声は約 300 件とメディア教材の活用も進んでいます。

特色ある利用として、経営学部インターシップ、リベラルアーツ学部卒業生のための LALCC (Liberal Arts Learning Community Center)、通信教育部ではアカデミックアドバイザー (担任指導) などにも活用されています。

Blackboard@Tamagawa 活用推移 (大学全体)



- ①授業数：正式に登録され、開講された授業コード数
 ②活用数：①の授業のうち、Bb を活用した授業コード数
 ③活用率：授業のうち、Bb を活用している割合
 (= ②÷①× 100)

	2004春		2004秋		2005春		2005秋		2006春		2006秋		2007春	
	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率	コース数	活用率
文学部	116	21.9%	108	26.7%	198	45.9%	183	39.3%	225	55.7%	201	49.1%	227	60.4%
農学部	11	5.0%	9	5.0%	39	19.4%	36	18.5%	67	29.1%	73	33.5%	74	38.4%
工学部	23	6.9%	25	9.8%	78	27.2%	77	28.1%	138	44.4%	123	39.8%	129	45.0%
経営学部	241	88.3%	240	98.1%	224	100.0%	225	99.2%	209	99.1%	217	97.0%	128	67.4%
教育学部	28	7.9%	31	14.5%	45	17.0%	48	18.4%	65	25.1%	49	19.2%	84	33.2%
芸術学部	20	2.5%	15	4.4%	48	24.0%	31	11.8%	63	27.0%	45	25.4%	91	28.6%
リベラルアーツ学部													40	79.6%
コア科目	19	10.2%	21	11.9%	49	26.8%	49	24.5%	67	33.0%	77	34.0%	88	49.0%
教職関連科目		0.0%		0.0%		11.4%		20.0%		28.6%		22.9%	5	38.5%
総計	462	16.5%	453	20.2%	711	36.8%	669	33.9%	834	44.2%	785	41.8%	866	45.7%

(注)

- ①コース数：教室での対面授業を 1 コースとして、授業コード区分別 (各学部、コア / 教職共通科目) に集計。
 ②受講者のべ数、教員実数：利用者を所属学部別に集計。
 ③活用率：各学部で開講されている授業の授業コードを元に集計。授業のうち、Blackboard を活用している割合 (= ②÷①× 100)
 ④コース数と活用率の違い：コース数は、Bb 利用対面授業数を把握する目的で集計。活用率は、全授業中の活用の割合を把握するため、授業コードを元に集計。

編集後記

今回は「リベラルアーツ学部の国語科指導法」の活用事例を報告していただきました。また、Bb 活用教員アンケート結果を掲載いたしました。春学期試験を直前に控え、アンケートにご協力いただきました先生方には厚く御礼申し上げます。この秋の Bb のバージョンアップによりコースコンテンツの一括コピーが可能となっております。是非ご活用ください。

e-Education NewsLetter 2007 Vol.3

2007 年 10 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp